

甲南平生拾芳奨励金

(フロンティアサイエンス学部 2021年3月卒業)

### 甲南大学での4年間と将来の展望

私は大学の4年間で有効に活用するために様々な活動を行ってきました。1年生の時から民間企業の方と交流し、企業のお仕事の手伝いとしてマウスの搔破解析を行うアルバイトをさせていただきました。企業の方との交流は現在も続いています。2年生からはアクティブリサーチ制度を利用して、現在も所属している研究室に仮配属し研究活動に励みました。他の人より早い時期に研究を始めて視野が広がり、普段の講義もこれまでとは異なる視点で受講できるようになったと感じています。また、これまでの学力や実績が教員から認められ、スチューデントリーダーに任命されました。科学分野の小テストやラボの清掃等を自ら企画し、学部生の学力や生活の向上を図りました。3年生では大学で学ぶことのできない分野にも知識を広げたいという考えで、大学での研究と両立して甲種危険物取扱者資格の勉強を行い、資格取得を達成しました。ここで得られた知識は研究生活においても応用することができ、有意義な勉強になりました。4年生現在では、理化学研究所で電子顕微鏡操作の研究補助をさせて頂くことになりました。大学の研究では顕微鏡を扱うことがないため、新たな経験を積ませて頂くこととなります。また、科目等履修生として大学院の講義を受講し、知識ではなく考え方を深めるトレーニングをしています。

大学での研究活動では実験を行うだけでなく、英語の論文を読むことによる現状理解、自身の研究内容を他者に伝えるための資料作成、後輩指導、実験計画、他者の研究内容の理解による知識の拡大等にも力を注いできました。しかし、これらのような研究活動を並行して行うことはまだまだ難しく、両立のために更なる努力が必要だと感じる4年間でした。私は、DNAのような核酸を用いた医薬品開発の改善を目指した研究を行っています。抗体医薬はノーベル賞を受賞したこともあり非常に注目を浴びていますが、核酸医薬は抗体医薬に次ぐ有望な医薬品と言われています。ただし、抗体医薬と比較して一般に普及していないのは、核酸医薬の戦略には未だ課題が残されていることが理由です。このような課題を解決していくためには研究活動の量と質が求められます。そのため、今後は前述のような研究活動を並行して質の良い研究を行っていくことが目標です。また、質の良い研究を行うには事象を論理的に考察できる能力が必要とされます。このような力は大学院の講義で養っていったらと考えています。

私は大学院進学にあたって推薦を頂くことができたため、進学が決定しています。大学卒業後は大学院修士課程で2年間過ごすこととなりますが、私は今の研究生活に楽しさを感じているため、3年間の大学院博士課程にも進学しようと考えています。全課程を修了し研究職に就くために、今後も精進していきますのでよろしくお願い致します。